令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひきめの森

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390200293		
法人名	株式会社 JAライフサポート		
事業所名	グループホーム ひきめの森		
所在地	〒028-2102 事業所住所 岩手県宮古市蟇目5地割48番2		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和5年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

連携している訪問看護の協力を得ながら、歩行訓練の強化に取り組んでいる。利用者様が高齢化してきていることやシルバーカーを使用している利用者様が多いことから、歩行状態の維持を務めることが出来るよう下肢筋力の強化に努めている。そのことで転倒の危険が少なくなったり、膝の痛みが少なくなることを目標に行っている。平行棒を利用した歩行訓練を利用者様ごとに設定し、訪問看護の作業療法士さんから定期的に歩行状態を見て頂いた上で見直しを行っている。また、玄関に季節の果実等を植える事で、作って楽しむ生活が出来るように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開所から約6年程が経過し、事業所では、利用者の様々な声（思いや意向）に耳を傾け、小さなことでも願いを叶えられるよう努めている。理念についても、職員のみならず利用者も共有し、日常的に和やかな雰囲気で過すことができている。運営推進会議の委員でもある地域の区長との関係がよく、災害時等に力を貸していただいたり、また地域住民との関係性も良く、地域密着型の事業所としての印象が強く感じられる事業所である。近隣に同一法人が運営するグループホームがあり、行事などを協力して行っている。訪問看護ステーションから理学療法師が来訪し、歩行訓練の指導や職員への助言を行い、歩行状態が良くなった利用者もいる。事業所の裏には広い畑には、野菜だけではなく果物の木もあり、その中の柿の木を利用して秋には利用者と一緒に干し柿作りをすることが恒例となっている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひきめの森

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については、職員同士朝礼や職員会議の都度内容の確認を行っている。また利用者様にも、ひきめの森の理念として機会があるごとに読み内容をお話しするようにしている。	「人・思・心・楽しく共に」を理念としている。開設当初からのこの理念は、シンプルな言葉の中に様々な思いが込められたものである。職員は毎月の職員会議で唱和し、事業所内にも掲示している。利用者にもこの理念を伝え、職員、利用者共に生活の中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、新型コロナの扱いが2類から5類になったことから、少しずつ交流できるように心がけている。	運営推進会議の委員の区長から災害などの有事の際に支援をいただいたり、近隣住民の方々との交流もあり、地域との付き合いは日常的に行われている。コロナ禍で地域との関わりが制限されたが、これからは出来ること見つけて交流を再開、継続したいと考えている。地域の中学校との交流も再開出来ることを願っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の区長さんに参加して頂くことでグループホームの生活状況や認知症の方の利用者様の状況を伝えている。以前は、地域で開催されたカフェにて講師の依頼を受け、認知症についての情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染症により、感染者が出ると運営推進会議を書類のみとなってしまうことが多かったが、今年度の入ってからは、出来るだけ開催するように心がけている。利用者の状況や利用者家族様との連携についても相談するようにしている。	系列事業所のグループホームと同じ日、同じ場所で時間差で開催している。地域包括支援センター、市役所、訪問看護ステーション、区長に委員をお願いしている。今年度は参集型で会議を開催できている。	運営推進会議の持ち方について事業所の行事（避難訓練など）等との抱き合わせによる開催や、ゲスト（新しい構成員や、地域の学校長等）を招いて開催するなどの工夫を期待したい。また、利用者や事業所職員の参加も検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際、市役所介護保険課の担当職員や包括支援センターの職員にグループホームの利用者様やご家族の対応について疑問になっていることや課題になっていることを指導して頂いたり助言を頂いたりしている。	市から様々な情報提供等を得ている。事業所内の困りごとを相談できる関係性も築かれており、時折助言も貰っている。運営推進会議でもアドバイスをいただいている。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひきめの森

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所では、身体拘束3要素がそろわない限り行わないことを重要事項説明書に唱っている。夜間何度も起きてきたり、日中も自室に籠ってしまう利用者様がいるが声がけを行い出来るだけ皆さんと過ごしていただけるような支援を行っている。	入居時に身体拘束を行わないことを利用者・家族に説明している。3ヵ月毎に身体拘束廃止適正化委員会を開催している。身体拘束排除に関するインターネット上の資料を使用した話し合いや事例検討会なども行っている。職員会議を利用して話し合いを持つこともあり、特にスピーチロック防止への理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	他の施設の中で虐待の起こった事例があり、そのことを重要視し職員会議やコンプライアンス会議を実施することにより注意を促し防止を呼びかけている。また外部の研修参加を促し防止に努めている。スピーチロックについて「動かないで！」「待ってて！」等の声がけを絶対行なってはいけないこと等職員同士で声を掛け合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当グループホームで2名成年後見制度を利用している利用者様がおり、担当の方との連携を取りながら資金等の相談を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームに入所する際には、重要事項説明書内容や契約事項の説明を行い契約書に署名をお願いしている。また損害賠償の内容の説明についても詳しく行うことにより安心して契約をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様より、毎日の献立の内容について、利用者様が食べたいものや飲み物について希望を伺いながら提供を行っている。また、コロナ禍においてご家族様から県外からの面会の希望があったためガラス越しでの対応を行ったりしている。利用者様からソファーの座り心地が悪くなっているとのお話があり交換を実施している。	利用者との日常的な会話を運営に活かしている。共有スペース（居間）のソファーが経年劣化したとの利用者から施設長への話を契機に交換したことや、立ち上がり時の手すりを設置した例もある。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひきめの森

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が希望する休暇については、極力とれるようにしている。また行事に関する運営の内容について、職員に一任することで実施している。またグループホーム内で、浴室の設備、利用者様の自室の手すり、ベットの手すりの設置を行っている。また、職員よりホールのソファーが古くなってきていたことから交換してほしいとの意見があり、交換を実施している。	職員間の関係性がよく、意見・提案も出しやすい雰囲気がある。職員会議の時間帯の変更、会議時間などについて、職員からの提案を柔軟に取り入れている。ハード面の各種改善へ繋げた例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの希望でトイレにをシュレットを設置したり、BSを入れてほしいとの希望があったため設置を行っている。また、転倒の危険があり、夜間に何度も起きてくる利用者様の部屋にセンサーの設置の希望があり、設置を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルスが5類になったことにより、JAライフサポートとしての研修が再開されている。グループホームとしても他事業所に依頼し研修を実施する予定となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、まだ再開されていない状態にあるが、同じJAライフサポートの他グループホームとは連携を取りながら業務の遂行に当たっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの申込者や利用希望のあった利用者様や利用者家族には面会を行い、グループホームの環境や目的についてお話しし、利用者様や利用者家族が不安に思ったまま入所にならないように対応を行っている。また利用者家族には、入所前に本人の状況を出来るだけ聞き漏らしの無いよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様や利用者様家族の生活環境をお聞きすることや利用者様の生活状況、今までしてきた職歴等をお聞きしている。申し込み時や契約時に生活しているうえで困っていることや入所する事で疑問に思っていることや不安に思っていることをお聞きするようにしている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひきめの森

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの申込者や利用希望のあった利用者様や利用者家族には面会を行い、グループホームの環境や目的についてお話しし、利用者様や利用者家族が不安に思ったまま入所にならないように対応を行っている。また利用者家族には、入所前に本人の状況を出来るだけ聞き漏らしの無いよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様や利用者家族様の生活環境をお聞きすることや利用者様の生活状況、今までしてきた職歴等をお聞きしている。申し込み時や契約時に不安に思っていることをお聞きすることにより解決できるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの蔓延によりしばらく家族様がグループホームに面会になかなか来られない状況が続いたが、家族様が出来る事（通院等）は行っていただくようにし、利用者様との関係が薄くなってしなわないように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のご家族が遠方におり、普段面会することが出来ない為、毎年お中元として海産物等を送っている。コロナの感染が多く聞かれているが、出来るだけ、ご家族や親戚等の面会は、行うことが出来るように支援を行っている。	過去には、孫が大人数で面会に来たり、知人も訪ねて来たこともあったが、コロナ禍によって馴染みの関係を継続できるか苦慮している。そこで県内外からの面会も可能な限り実現するようにし、また、関係が途切れないよう毎年出す人を決めて（利用者が）年賀状を書いたり、関係が希薄にならないようにお中元などを送るための支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ過で面会に来ていただける利用者様のご家族等が来所して頂ける機会が少なくなっているが、面会をしたいとの依頼があった際には、極力面会していただけるように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の退所後や入院時には、関係機関に連絡を取りながら情報共有に努めるようにしている。利用者様がやむを得なく退所となってしまうでも利用者様やご家族が困ることの無いよう同事業所の居宅や関係機関と連携を取りながら支援の継続を心がけている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 5 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひきめの森

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族からの意向を聞くようにし、希望があった際には自宅への外泊やお出かけ等出来るようにしている。また自宅にいる頃から習慣で飲んでいたドリンクやヤクルト等飲んでいただけるように支援を行っている。	日常的にコミュニケーションが取れていることもあり、遠慮なく利用者は思い等を話せる環境にある。生活習慣の聞き取りを大切にし、かつての日常を出来る限り継続できるよう、毎日のように飲んでいたコーヒー等をここでも飲めるような環境を作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の申し込みがあった際には、利用者本人やご家族との関係、関係機関の方との面会を実施し、状態の把握に努めている。出来るだけ生活歴や趣味、今までしてきた職歴、ご家族や本人の意向を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝礼の際に利用者様の身体状況の変化や夜間帯の様子などを情報共有するようにしている。また利用者様の身体状況が変化したことにより、今の職員の対応の仕方で問題はないのか検討を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様に職員が担当となり、普段の様子や変化に気づけるような体制を整えている。毎日の朝礼や職員会議にて共有を行い、今後は、どのような支援が必要か検討を実施している。	利用者毎に担当の職員がおり、日常的な変化は担当職員を中心に記録するようにしている。モニタリングは担当職員の日々の細かな観察を収集し、職員会議で職員間で共有したうえで、3ヵ月毎にケアプランを見直している。ケアプランには利用者の得意なことや主治医の意見も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の担当を決め、毎月モニタリング、評価の実施を行っている。その内容を踏まえながら、利用者様がよりよい生活が出来るように職員会議や朝礼等で話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護職員が出来ることを生かし、毎月の壁紙装飾を行っている。昨年も梅干し作りを行ったが、今年は、利用者様から「自分が作った梅酒を少しずつ飲んでたった」というお話を聞いたため、梅干を漬けるのに加え、梅酒づくりも実施している。作り方についても利用者様から聞きながら実施している。		

[評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひきめの森

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、地域の方に利用者様の顔を覚えていただくことにより、一人で外に出てしまった時など連絡して頂いたりしていた。現在は、帰宅願望等見られる利用者様はいない為、そのような事態にはなっていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に通院されていたかかりつけ医に引き続き通院できるように支援を行っている。ただし身体状況の変化や病状の変化が伴う必要と判断した際には、ご家族に相談し、同意を得た上で変更するようにしている。	通院は可能な限り、家族へお願いしている。家族の対応が難しい場合には事業所で対応している。病院で家族と待ち合わせることもある。利用者のかかりつけ医は基本的に在宅時からの継続としている。治療方針の変更があった場合には直ちに家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している訪問看護師が週2回訪問して頂くことにより利用者様の身体状況を把握して頂いている。利用者様の体調不良時や便秘等の体調変化時は、訪問看護に連絡し、どのような対応を行ったらよいか常に支持をして頂いている。緊急時にも相談し救急であるか様子を見ても良いかのは判断も行って頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が転倒し手術やリハビリを行うため入院となったが、入院した際、医師とどの程度の入院期間になるのか、どの程度のリハビリが必要になるのか、また利用者様本人は、どの程度の回復を望んでいるのかの意思の確認を行い病院や医師と相談を行っている。入院時にも経過についてお聞きするようにし、対応に当たっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一人の利用者様が転倒したことにより、身体状況等に変化があり、また食事を自分で食べる事が出来なくなったり、入浴時には浴槽に入ることが困難になり、職員同士で何度も支援の方法について話し合いを行っている。ご家族や同事業所の介護支援センターとも連携し、話し合いを行った結果、入浴が一般浴では困難であることから特養へ入所となっている。	看取りを実施し過去に数回の経験がある。状態が落ちてくるなど利用者の個々の状態に応じ、家族等の意向を確認し、特別養護老人ホームへの住み替えも含め、できる限りの支援を行っている。看取り期に入った場合、医師・看護師・施設職員のすり合わせを行い適切に対応している。看取りを振り返るための研修会を開くなどして、よりよい支援へ繋げる取り組みを行っている。	

令和 5 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひきめの森

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中は、急変等が発生した場合には、管理者に報告し、状態を確認したうえで訪問看護に連絡し指示を頂いている。夜勤については、夜勤に加え宿直を置くようにしている。転倒や身体状況に急変があった場合には、夜勤者は、宿直者に応援をお願いし管理者に報告を行う。その後訪問看護に指示を仰ぎ救急車等の要請を行う必要があるか判断することにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地主さん等に協力を得ながら地域の方の協力が得られるように相談を行っている。地域の飲み仲間の様だが、地主さんが連絡をしたらすぐに協力が得られるような体制を取っていただいている。昨年は、近隣の方を含めた避難訓練を行う予定であったがコロナウイルス感染の危険があったため行うことが出来ていない。	災害時には、近所に住む地主の方から全面的な協力をいただいている。避難訓練は、年2回（2月・10月）実施しているが、今後は薄暮時の夜間想定訓練を考えている。食料品（缶詰、フリーズドライ食品、果物等）、カセットコンロ、反射式ストーブ、発電機を備えている。発電機は年1回使用方法を確認している。	運営推進会議開催時に避難訓練を実施するなど、これまでの支援者以外の方の協力を得られるための取り組みを期待します。また、冬季や夜間（暗闇の状態）の危険個所の確認を予め行い、二次災害を防ぐ取り組みを行うことが望まれます。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当グループホームでは、「人、思い、楽しく共に」との理念を掲げている。利用者様が楽しく、尊厳を損なうことの無い様に支援を行うため、高齢者虐待の研修の外部研修を受けてもらい、職員会議で発表し情報の共有を行ったりしている。	利用者の尊厳を大切にし、日々の活動でも利用者への感謝の気持ちを忘れず、言葉にして「ありがとう」を伝えるようにしている。利用者の能力を存分に発揮してもらえるよう、好評を博している梅干、梅酒は利用者が作っている。プライバシーを確保するため、入浴時にはしっかりとドアを閉めることとし、羞恥心への配慮も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人が、気を遣わず自分の意志が表現できるように職員が利用者様の表情や言葉遣いに注意し声がけを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所前に利用者様がどのような生活をされてきたのか本人やご家族、関係機関等に情報提供をお願いしている。出来る限り自宅に居た頃との生活環境を乱さないように心がけている。		

令和 5 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひきめの森

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は、地域の方に利用者様の顔を覚えていただくことにより、一人で外に出てしまった時など連絡して頂いたりしていた。現在は、帰宅願望等見られる利用者様はいない為、そのような事態にはなっていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様、それぞれ手伝いのできる部分での担当をお願いしている。（食材の下準備、盛り付け、おしぼり畳、食器洗い、食器すすぎ等）利用者様は、自分の役割を十分理解しており、自ら率先してお手伝いをお願いしている。	利用者は皮むきや下準備など自分のできることを行い、職員と一緒に食事作りをしている。献立は専任の職員が立ててはいるが、野菜の差し入れ等があれば食材に応じて活用している。利用者の誕生日には、その方の好きな物を提供できるようにし、お刺身やお寿司は喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立、食事の摂取量や水分摂取量を利用者様別に記入し職員が把握することで必要な摂取量を取ることが出来るよう心がけている。最近献立が同じパターンになる傾向がみられたため、今までと別の業者に献立が出来た物を試験的にお願いし食事を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全利用者様に毎食後の歯磨きやうがい等を実践し、歯磨きが出来ない利用者様については職員が介助を行っている。また現在は、歯磨きのできない利用者様は少ないが、利用者様が傷つかない声がけを心がけ磨けているかどうかの確認を行うようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様ごとに毎日の排泄チェックを行い、排尿や排便の回数等の確認を行っている。うまく排泄はできていない利用者様については、訪問看護に連絡し相談したり、何日も排便がない利用者様については、訪問看護に訪問していただき必要な処置を行っていただいている。	トイレでの排泄を基本としている。排泄コントールがうまくいかない方もいるが、排泄チェック表を活用し、個々のパターンに合わせた声がけをし排泄自立支援を行っている。一人が夜間にポータブルトイレを使用している。便秘予防への取り組みとして、水分摂取の励行や乳製品摂取、酸化マグネシウム活用を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するために一日ごとにヨーグルトや乳製品の摂取をして頂くようにしている。また適切に水分が取れているかの確認、野菜等の食物繊維が取れているのか職員が注意観察し、取ることが出来ていない場合には、声がけし摂っていただくように支援を行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひきめの森

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なかなか利用者様の入浴の曜日を変更することはできていないが、入浴剤を変えたりすることで入浴が楽しめるように努力している。	週に2回の入浴っとしている。入浴時間が短めの利用者から入浴し、ゆっくり入浴したい人は遅めの時間とし、利用者の希望に沿うような順番としている。入浴を嫌がる方はいない。利用者と職員とが一対一で入浴し、対話を大切に、思わずこぼれてしまう（利用者の）声を支援に繋げる機会と考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今年の夏は、暑さが続き利用者様も寝苦しい夜が続いたが、廊下側にエアコンを設置し気持ちよく寝ることが出来るように支援を行っている。また、寒さが強い部屋には、暖房を設置することで暖かく寝ることが出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様が服用している薬については、常に見ることが出来るようにしている。また便秘傾向にある利用者様については、毎日排便の状況について確認を行い、医師や訪問看護や担当の調剤薬局との連携を行いながら支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に寄り添いお話を聞くことで利用者様の思いを聞き取り、生活してきた状況等を把握し利用者様がどのように生活することを望んでいるのか聞けるよう取り組んでいる。また利用者様が現在できる仕事を考え、食事の下準備や盛り付け食器洗いや洗濯干し等、毎日継続し行っていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段出かけることが出来ない場所については、行事の中で利用者様全員が出かけることが出来るようにしている。	日頃は事業所の側にある畑に出かけたり、近隣を散歩している。季節ごとにお花見や紅葉狩りのドライブを楽しんでいる。散歩時には近隣から声をかけてもらったり、野菜のお裾分けをいただく事もある。また、通院時に買い物に立ち寄ったり、欲しいものがある時には買い物に出かけたりしている。家族との外出の機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が少額ではあるが現金を所持しており、利用者様の希望があった際や、職員と買い物等に出かける際には、使っていただくよう支援を行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ひきめの森

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人が電話を掛けることが出来る方は少ないが、希望があった際や電話をかけたいと本人の希望があった場合にはグループホームの電話を使用し掛けていただくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に季節感のある装飾を職員や利用者様が協力し作成し貼るようにしている。また利用者様の希望に合わせた温度に保つ事が出来るようにしている。	季節の飾りつけを施している。廊下の途中には天窓があり外からの採光もある。ホールには大きなソファが2つあり、利用者のほとんどがそれに腰掛けてくつろいでいる。時には、腰かけたままビニールボールバレーなどのレクリエーションを行い、賑やかな声が聞こえてくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごすことが出来る時間を設けるようにし、自室でゆっくり本や新聞を読むことが出来るように支援を行っている。また自室でテレビを観たい利用者様については、設置しいつでも見ることが出来るようにしている。気の合う利用者様が気軽に話が出来るように隣同士の席にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時の説明の段階で、自室は、利用者様の好きなように配置してよいとの説明を行っている。グループホーム内で行った誕生会の色紙を貼ったり、自室でテレビが見たいと申し出のあった利用者様には、設置して頂くようにしている。	広さは8畳程度でベッドとクローゼットが備え付けられている。利用者によっては小さなテーブルや椅子を置いている方もいる。お位牌を持参している方は、毎朝、お供え（ご飯）をあげている。思い思いの居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人一人が出来ることを把握し、本人の意思を尊重しながら、無理することなく出来ることをお願いするようにしている。お手伝いをお願いしている際には、職員が側につくことで新しくできることを発見できるよう心がけている。		